R3 年度

愛知県放課後児童支援員キャリアアップ研修レポート

受講日：1/26（水）

テーマ１「発達障碍児など配慮を必要とする子どもたちへの支援」

『子どもの前に立つ大人は、自分は何者であるのか、なぜ子どものことをそのように捉えるのかを知っておく必要がある。』

今回の講義の中で私にとって一番に、そして強烈に、印象に残った言葉です。今までいろいろなところで、いろいろな内容の研修を受けさせていただきましたが、このお話や言葉を聞いたことはありません。なんとなくではあるけれど、なぜそのような声掛けをしたのかを、現場で、その場で、考えられるようにすることがどんな時でもできるようにならないといけないなと感じました。

子どもに『由衣ちゃんはどうしてあおぞらで働いているの？』と聞かれたことがあります。子どもにとってはきっと素朴な疑問だと思います。しかし、考えてみると、なかなか難しいような気もします。その答えが子どもたちの生活を見守る指導員として、子どもたちへの働きかけの糸口やきっかけ、キーワードになっているのかなと考えました。

子どもが好きだからとか、みんなにこんな気持ちを持って欲しいとか、こんなことが出来てくれたら嬉しいであるとか、いろんな思いを持って日々子どもたちとすごしています。しかし、それは私の気持であって、子どもたちひとりひとりにも、相手が誰であっても考えていることや気持ちがあって…、一緒に生活したり、一緒に遊んだりすることの難しさやおもしろさを感じました。だからこそやっぱり、そりゃケンカもおこるよなと思いました。

子どもの言動に右往左往することもたくさんあり、悩むことや考えることがたくさんあり、でもそれは子どもたちも一緒で、何もないのに何かが起こるわけがないし、大人と同じとまではできなくても、子どもたちは子どもたちなりに、大なり小なりいろいろな気持ちを抱え、考えているんだろうな、とどんな状況でもまずそう思えるようにしたいです。また、子どもたちがどのように考えて、なぜそんな風にしたのかを子どもたちの言葉でしっかり聞いて、そのうえで、私の思いや考えを伝えていけたらいいなと思いました。